

はじめに



協議会での議論



まち歩き



中間報告会で住民と意見交換



素案説明会での発表

杉並区は平成12年9月に、阿佐谷・高円寺地域が「防災のためのまちづくり」の最も必要な地区であると判断し、その対応策を住民が区と協働して、自主的に検討するよう呼びかけた。この区の呼びかけに応募した19人の住民は、同年11月に「阿佐谷・高円寺地域防災まちづくり協議会」(以下「まちづくり協議会」という)を設立し、従来からある道路計画や地区開発計画にこだわらず、1年半にわたり、自由に検討を進めてきた。

この間、38回の会議、7回の現地視察(内2回は他の地域の先進例を視察)、3回の住民説明会(内1回は他地域の人へ公開)を開催した。メンバーは学習や作業などに精力的に取り組み、激論を交わすこともしばしばであった。また本構想は、メンバーの日常の生活実感から、防災のみならず、当地域の将来像や生活環境をも対象として検討した。

これらの経緯から、まちづくり協議会に2つの性格が認められる。

協議会メンバーが、個々人の自由な発想にもとづき討論し、自主的防災まちづくりを提案する。

メンバーは、当地域の各町・丁目から参加しているが、地区・地域を代表するものではない。

< 構想の実施にあたっての前提 >

上記の経緯、性格を踏まえ、まちづくり協議会は、本構想の実施には次の前提があることを強調するものである。

本構想は、従来からある都市計画道路や地域開発等には一切こだわらず作成した提案であり、住民に自主的検討を呼びかけた杉並区としても、既存の計画を見直し、本構想を基軸とした実施計画を作成すること。

本構想の具体化にあたっては、杉並区は単なる説明会ではなく、個々の項目に該当する地区住民の十分な合意を得た上で実施すること。